令和５年７月２４日（月）　デーリー東北

青森県勢 3回戦進めず

【ソフトテニス男子個人1回戦】三戸の佐藤飛夏（右）・原光汰組は、大森晴太・北野陸仁組（栃木・黒磯南）に4－2で勝利し、初戦を突破する＝苫小牧市緑ケ丘公園庭球場

北海道インターハイ

全国高校総合体育大会「翔び立て若き翼　北海道総体　2023」は23日、北海道苫小牧市などでソフトテニス競技などが行われた。青森県勢は、ソフトテニス男子個人に三本木、工大一、三戸、弘前実から計6組が出場。このうち、唯一の1回戦からの出場となった三戸の佐藤飛夏・原光汰組が初戦を突破したが、2回戦で全組が敗退した。

24日は、同市でソフトテニス男子個人の4回戦から決勝まで実施する。（堀端桃子）

ソフトテニス

＝青森県関係分

▽男子個人1回戦

佐藤（三戸）　4－2　大森・北野（栃木・黒磯南）

▽同2回戦

宮内（香川・尽誠学園）　4－0　田田（佐藤・原（三戸））

佐藤・原組（三戸）1回戦勝利「楽しかった、悔いなし」

○…ソフトテニス男子個人の佐藤飛夏・原光汰組（三戸）はインターハイ初出場。工大一など青森県のペアが初戦の壁に阻まれる中、県勢では唯一の勝利となる1回戦突破を果たした。2人は「全国大会出場は目標だった。1回戦を勝ててうれしい」と喜んだ。

三戸の男子部員は3人。平日1時間半、休日3時間という短時間の部活動に集中し、さまざまな場面を想定した練習に励んできた。

その中で確立したのが、攻撃的な「ダブル前衛」の陣形。関根淳一監督が「負けず嫌いな佐藤、何事も器用にこなす原」と分析する2人の特長を生かしたスタイルだ。1回戦ではこのコンビネーションが決まり、佐藤は「打ちたいところに強い球を打ち、相手が自分たちに対応する形を作れた」と胸を張った。

2回戦は強豪・尽誠学園（香川）のペアを相手に奮闘するも敗退。力を出し尽くした原は「レベルの高い選手と戦えて楽しかった」と悔いなしの表情を見せた。